

表現主題を多様な視点から分析的に検討させる学習指導の試み —題材「ねがいをかなえるお守り」におけるワークシートの開発を通して—

A Study of Art Teaching to Make Themes of Expression through Various Studies
and an Analytical Viewpoint.

-Developing a Worksheet for the Theme “Amulets that Make Wishes Come True”

*光山 明
KOUYAMA Akira

1. はじめに

本稿は、中学生が自らの表現主題を探求できる題材の在り方と「制作カルテ」と名づけたワークシートを活用した指導方法について、具体的な授業実践を通して、その教育的可能性を検討した。「制作カルテ」は漠然とした表現のイメージを言語化したりマインドマップによって広げたりするなどの複数の学習活動を通して、表現主題を多角的かつ分析的に検討させることをねらいとしたワークシートである。授業実践を通して、ワークシートの記述内容と生徒作品の分析からその教育的効果を考察した。その結果、題材名による内的イメージの刺激と「制作カルテ」によって多角的かつ分析的に表現主題を検討させる学習指導が、学習者の表現主題の生成に効果的であることを明らかにした。

筆者の勤務校では、中学校1年生には基本的に観察を基に絵や彫刻に表現する題材を取りあげ、2年生で構想画や心象的な表現に取り組ませるカリキュラムになっている。1年生では、ほとんどの生徒が熱心に取り組んでいたのに、2年生になると何人もの生徒が学習意欲をそがれたり、表現が投げやりになったりする現象が起きる。そうした子どもたちに寄り添ってみると、「何を描いていいかわからない」「描きたいものがない」というつぶやきにぶつかる。構想画や心象表現では、基本的には個々の内面的なイメージを表現対象としているため、子どもの表現への主題意識がなにより大切で、これが表現活動を前進させる力となる。ドロップアウトする子どもらが直面する「自分は何を描くのか」「何を描きたいのか」という問題は、まさに表現主題をどう設定するかという悩みそのものである。

これまでの表現主題に関する研究の多くは理論研究であり、方法論は提案されていても具体的な実証のないものが多い。表現主題を文で

*光山 明／古河市立古河第二中学校
KOUYAMA Akira / Koga Daini Junior High School
E-Mail : kouyama.akira@mail.ibk.ed.jp

書かせる絵画指導の実践研究¹⁾も存在する。しかし表現主題の指導は題材との関連、発達段階の考慮など複雑な問題を抱えていると考える。こうしたことから、生徒が自らを見つめ主体的に表現主題を生み出すことのできる題材の在り方と、表現主題を生み出すための実践的な指導方法について検討すべきである。

本稿は、中学生が自らの表現主題を探究できる題材の在り方と「制作カルテ」と名づけたワークシートを活用した指導方法について、具体的な授業実践を通して、その教育的可能性を検討することを目的とする。

2. 先行研究

表現主題に関わる研究としては新井哲夫、立原慶一、金子一夫らの理論研究と有田洋子の実践研究が挙げられる。

新井哲夫は絵画における主題について、「作者が対象やモチーフから得た感覚や感情が、造形的な形式によって統一されることによって、はじめて表現内容つまり『主題』として形成されると言える。」と述べている²⁾。これは、作者の感覚や感情という内面的なイメージが、表現形式などの検討を経て造形表現として現れることにより「主題」が成立するという考えである。また、造形的な形式によって統一される以前に作者の内面にある感覚や感情は、新井の言葉によれば「成熟した『主題』に至るまでの過渡的な『主題』あるいは動因」であるという。本研究では新井の主題観における、制作を通して明確化され具体化されるという主題形成の性質と表現への動因形成という主題の機能に注目した。そこから、表現活動の初期段階での主題をどのように意識づけ、制作の進行に伴ってどのように深化させるかという研究の視点を得ることができた。

立原慶一の問題意識は、今日における子どもの美術学習への意欲の低下、あるいは表現する

ことの放棄という切実な状況把握から始まっている。「何を描いていいのかわからない」と訴える主体性を失った子どもたちに対し、表現を通して自己理解を深め人間的成長につながる美術教育の考察が、立原の主題論研究の出発点である。その核となるのが多様な題材の開発と作品の詳細な分析作業である。「すなわちわれわれは、子どもや青少年が自己の自然観、人間観、社会観を意識し、それと直面するような『題材』を考案し、その題材実践でどのような主題が掘り起こされるかを、分析し吟味しなければなるまい。」³⁾と述べられているように、立原の実践では、表現者の生活感情と直接結びつき、表現を通して社会観や人間観から主題が掘り起こされる題材が注意深く構成される。さらに具体的な作品に対する立原の解釈を中心に、どのような主題が導き出されたのかを分析することにより、題材の教育的効果が検討されている。また、後に述べるように題材名の工夫による指導効果も実証されている。本研究では、授業実践にあたり、立原の主題論研究の成果を参考にしながら、題材名を含めた題材構成と主題との関連を検討した。

金子一夫は、表現主題を作品の内容に方向性と統一性を与える主観的な表現目標であると定義した⁴⁾。この場合、主題は内的なイメージとして存在し、表現を前に進ませるための目標として、実際の造形活動の前段階で既にあるということになる。そして、「主題は文かそれに近い形で作成し、語順まで意識して慎重に作成すべきである。」⁵⁾として、主題を言語化した上で造形表現に取り組ませる方法論を提唱している。この方法は、主題を言語化することで、描きたいものを見いだす手がかりを与え、主題を明確につかませることができるとしている。また、教師は児童生徒の主題を把握し的確な助言指導ができ、制作中に迷った際には言語化された主題に戻って考えさせることができる指導方法であると述べている。

2009年に発表された論文⁶⁾では、表現主題の理論的解明をさらに進め、表現主題を自己表出語（感情の言葉）と指示表出語（像の言葉）を組み合わせた一文で表す美術教育方法論を提唱した。その中では児童生徒の発達や題材に即したより具体的な指導方法についての提案もされている。特に注目すべきは、言語未発達児、あるいは視覚像未発達児に対しても主題の言語化という指導法が適用可能かという検討である⁷⁾。

金子の表現主題を言語化するという方法論は、基本的に小学校中学年以上を対象にしている。そこでは、基本的に視覚像と言語がバランスよく発達していることが前提とされている。しかし、実際の子どもたちでは、様々な要因から視覚像あるいは言語の発達がアンバランスな場合や、当該年齢にしては両方とも未熟というケースが考えられる。筆者の経験からは、特に障害を持っているということだけでなく、思い浮かべたイメージを言語化することに苦手意識を持っている子どもは意外と多い。本研究では中学2年生の通常学級に在籍する生徒を対象とするが、少なくとも対象とする筆者の勤務校の子どもたちにとって、漠然とした内的イメージに適した感情と像を表す言葉を「文かそれに近い形で作成する」という作業は難しかった。これは、子どもたちに語彙が足りないことや、内面的なイメージを言葉にする経験が足りないなど様々な要因があると考えられる。こうした現状から、本論は金子の方法論をさらに噛みくだいて解釈し、生徒たちに分かり易く、取りかかりやすい指導方法を提案し、実践を通してその有効性を検証したい。

有田洋子は先の金子の理論及び実践的指導方法を参考に、表現主題の言語化をさせた指導方法を高校生を対象に実践し、実際の作品やアンケート調査による分析から考察を加え、その教育的有効性を実証した⁸⁾。しかし、思春期の中学生に適応可能かという疑問、絵画以外の題

材やより心象表現的要素の強い題材への適応といった問題については未解決であると考ええる。そこで本研究では、中学生の発達段階に合わせた指導方法、題材設定と主題指導の関連、ワークシートの活用などについて実践を基に検討する。

3. 題材「ねがいをかなえるお守り」の教育的ねらい

中学生にとって、感情や心の中をテーマにした題材は、生徒が表現主題を追求することを通して自分自身の内面と向き合い、自己を発見したり社会的な価値に気づいたりすることができる大切な学習課題である。そこで、筆者は生徒が自分の夢や目標といったものを見つめることから表現主題を生み出すことができる「ねがいをかなえるお守り」という題材を開発した。この題材は筆者の勤務校で平成22年度に初めて実施した内容で、材料や指導方法など検討すべき課題が多いいわば未熟な題材である。本章ではこの題材の教育的なねらいと、ねらいを達成するために行った題材名の変更について述べる。また題材名の変更を中心とした題材構成全体を見直したことが、題材の本質的な性質を変化させ、学習者の主題生成に大きな役割を果たしたことについて述べていく。

(1) 抽象彫刻としてのボーンカービング

ボーンカービングは、材料となる動物の骨（ボーン）を彫刻（カービング）する技法で、昔からハワイやニュージーランドの先住民の間では、ペンダントとして身に付けるお守りとして親しまれてきた。骨の素材が持つ温かみのある質感や独特の光沢が魅力で、素朴で野性味にあふれたアクセサリーとして人気が高まっている。

本題材は、生徒それぞれが自分の「お守り」として作りたい形を発想し作るという内容である。具体的には、自分の夢や目標などに関す

る主題を基に、単純化や強調などの視点から作る形の構想を練り、糸のこで材料を切り出し、やすりがけを行い、研磨剤で磨き上げるという創造的な表現活動である。「お守り」として身に付けることやその制作工程からは工芸的要素も強いが、題材の特質とねらいから、抽象的な彫刻として指導する。

(2) 「お守りづくり」から「ねがいをかなえるお守り」へ

この題材は最初「お守りづくり」として実施した。主題を生み出す活動では、ワークシートを用いて「どんな願いをこめたお守りにしますか」「誰が使いますか」という二つの視点から自分の願いを見つめさせ、主題を言語化させる指導を試みた。しかし多くの生徒は「お守り」という言葉から、邪悪なものを退ける効果や、安心感を得るために身に付けるものというイメージを強く持ってしまったようである。その結果生徒の主題には「健康」「交通安全」など、一般的なお守りの効果を表す言葉が並んだのである。中学生らしい願いとして「部活動の試合で勝ちたい」「友情」なども見られたが、漠然としており、自分の内面を見つめる中から出てきた言葉とは言えなかった。こちらが意図した主題を生み出した生徒も存在したが、ごく少数であり、全体として題材のねらいを達成しているとは言えなかった。そこで、題材構成と指導方法を再検討することにした。

題材構成の検討で参考にしたのが、立原慶一による一連の主題論研究である。例えば題材名を「夢」から「夢の色模様」としたことによって、制作者に多様なイメージを喚起し、主題表現が豊かで幅の広いものに変化したという研究成果がある⁹⁾。

この研究成果を参考に熟考し、題材名を「ねがいをかなえるお守り」とした。「ねがいをかなえる」という語を付け加えることで、題材の本質が大きく変化した。「ねがい」は表現者である子どもそれぞれの夢であり目標である。

「かなえる」という言葉には未来を指向する前向きな意味が存在する。題材名を「ねがいをかなえるお守り」とすることによって、表現者自身の生き方に目を向けさせ、夢や未来の姿といった内面的なイメージを刺激することで、豊かな主題表現をさせることができると考えた。

また、表現主題の論理的考察を踏まえた指導方法の改善も図った。その核となるのが「制作カルテ」と名付けたワークシートである。これについては次節で検討する。

(3) 夢や目標の比喩的表現

夢や目標といったものを題材にして主題を生み出す表現の場合、自分の心を見つめ考えたことを、想像や空想の世界として表現していく活動が考えられる。このような題材は表現主題を生み出す学習活動で、自分の内面に直接的に向き合うことが求められる。しかし思春期の生徒は、自分の心を見つめる課題に拒否反応を示すことが少なくない。「ねがいをかなえるお守り」は、造形的にはボンカービングによるお守りを作るという題材である。生徒はお守りに託す「叶えたい願い」に思いをめぐらし主題を生み出す。「叶えたい願い」＝「夢や未来への憧れ」という構図によって、「お守り」は生徒それぞれの夢の比喩的な表現として造形化されることになる。「ねがい」を見つめることは、生徒が自分にとって守りたいもの、大切にしているものを発見しようとする心の動きである。それが自分に関わるものであれば、それまでにない新たな自己意識に気づくきっかけとなる。また、自分以外のものや人へ向けられたとき、それらに対する優しさや対象に向けられた愛に気づくこともできるだろう。つまり、生徒が「お守り」を作る造形表現を通して、無意識的に自分を見つめ、自己理解が促されるという構造を持った題材なのである。

4. 主題を生み出す「制作カルテ」

主題を生み出す指導を、理論的かつ構造的に行うための具体的な方法論の中心となるのが、「制作カルテ」と名づけたワークシートの開発である。カルテはドイツ語の“Karte”に由来する言葉で、一般に医師が患者の診療経過を記録した診療録を指す。ワークシートを「制作カルテ」と名づけたのは、生徒にとって新しい学習方法であることを印象づけ、学習意欲を引き出すねらいがある。また、制作の過程で常に近くに置いておき、医師が用いるカルテのように必要に応じて繰り返し参照させたいと考えたからである。本章では「制作カルテ」の構造とそのねらいを述べる。

(1) 「きっかけとしての主題」と「深化した主題」

これまでの表現主題に関する研究成果を念頭に、本研究における表現主題についての考え方を定義する。

表現主題は、作者が美術を通して表したいことである。主題は表現の内容を決定付け、色や形などの造形要素、材料や表現形式などさまざまなものを統合する機能を持っている。表現主題ははじめから明確なイメージを形作っているわけではなく、作者の内面の曖昧な像として思い浮かべられるものである。そして、造形表現が形になって現れる中で、さらに明確にされていく性質を持つと考える。この定義によると「主題」は表現の前段階に言葉で言い表そうと

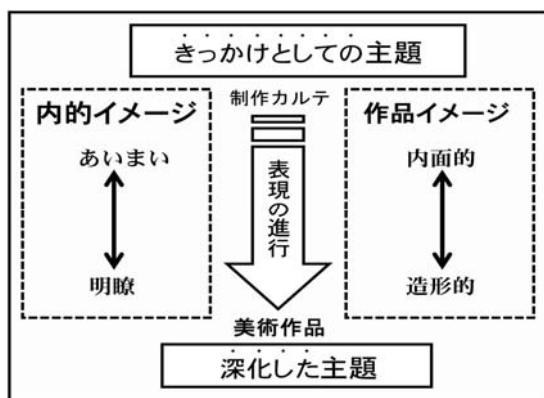


図1 「きっかけとしての主題」と「深化した主題」

しても、的確に表現することは不可能となる。しかしながら、表現活動を始めるきっかけがなければ、表現の内容をはじめ、色や形などの様々な造形的な判断をすることができず、表現活動そのものを進めていくことができないことになる。

このように考えると、主題は表現の方向性を決定し、表現活動の推進力として働く。また、表現主題は制作の進行に伴って明瞭になり、それは内的イメージから造形的なイメージへと変容するものであるということが出来る。

仮に、明確になった主題を「深化した主題」とすれば、表現活動の初期段階で決定される主題は「きっかけとしての主題」ということができる。作品が仕上がったときに題名をつけるという作業は、まさにこの深化した主題を表現することだと言える。もちろん主題は一直性に迷いなく深化するものではない。内面的なイメージと造形的なイメージを行き戻りしつつ徐々に明瞭化するものである。本研究で問題にしているのは主に「きっかけとしての主題」についてである。それを見いだすのが「制作カルテ」である。これは、子どもに表現の方向性を定めさせると共に目標を持たせ、活動を前に進ませるエンジンの役割を果たす。これにより美術学習が生き生きと動き出すことを期待するものである。(図1)

(2) 「制作カルテ」の特徴と構造

本研究において主題を生み出すための「制作カルテ」を活用した指導方法では、金子の提唱する主題の言語化という方法論を踏まえ、基本的には文で書かせることを重視する。加えて、マインドマップ¹⁰⁾やインターネットの検索から得られる画像、友だちや教師からのアドバイスなど様々な手がかりから主題を明確にするためのワークシートが「制作カルテ」である。

「制作カルテ」は、主題を表現する文、マインドマップ、スケッチや画像資料、友だちや教師からのアドバイスなど、主題について検討す

るためのそれぞれのセクションが、A3の用紙1枚にまとめられており、学習者は「制作カルテ」を作りながら、自然な形で主題を生み出すことができるように配慮されている。それぞれのセクションを相互に関連づけて参照することで、よりいっそう主題についての理解を深めることができる。また、制作の際には近くに置いておき、必要に応じて参照することで、生徒は自らの主題を確認しながら制作を進めることができる。また、教師は生徒の主題をより正確に理解し、的確な助言を行うことが可能になる。

また、主題の決定が多角的な視点から検討されるという特徴は、先に検討した内面のイメージを言葉で表現するという経験が不足している子どもや視覚イメージが未発達の子どもの対しても適応できる可能性がある。

以上のことから「制作カルテ」の活用は、生徒一人一人の多様な特性に柔軟に対応し、主体的な活動を通して多角的に主題を検討させる指導方法であると定義できる。(図2)

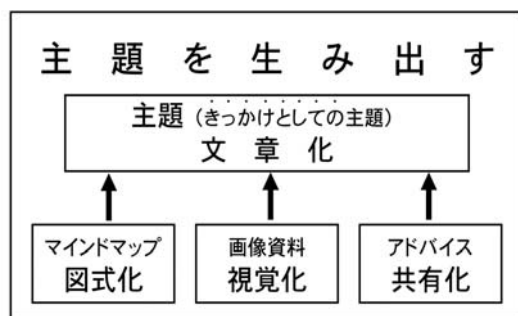


図2 「制作カルテ」の構造

つづいて各セクションの主題を生み出す機能について詳細に検討する。

① 発想のためのヒント

ここでは叶えたい願いがどのようなものか考えさせる。ここでは主題を言語化することが中心となる。まず「かえたいねがいとはどんなことですか」で、自分の夢や願いなどについて自分を振り返らせる。続く「ねがいをかなえるパワーを与えるのはどんな形でしょう」では、夢

や願いを具体的なイメージにつなげて考えさせることができる。「ねがいを叶えるパワー」としたのは、単に「どんな形にしますか」という投げかけよりも、より強く自分の願いを意識でき、その形に祈りを込めるという意識を持たせようとしたからである。

さらに、主題の文から重要な言葉を取り出し、それを出発点としたマインドマップを書かせる。マインドマップでキーワードとなる言葉から別の言葉を連想することで、内的なイメージを広げ、別の角度からの発想をさせることができると考えた。造形化に当たっては、一つの角度から考えると思いが行き詰まることがよくある。このような場面では、マインドマップによって出てきた思いもよらないキーワードによるイメージの広がりや、柔軟で幅広い発想を可能にすると考えた。

② 造形化のためのヒント

「ねがいのキーワードや形のキーワードに関するスケッチや写真」の設問は、具体的な形を決定する構想の場面や、実際に彫刻する活動に生かすための課題である。主題の漠然としたイメージから具体的な形を決定していく活動では、実際の対象物や図鑑などの写真を参照して視覚的なイメージに定着することは有効である。例えば「豪華な花」という主題で作品を作る場合、複数の花の写真を比較しながら、自分の主題にぴったりの花を見つけ、その画像のイメージを参考に作りたい形のスケッチを描きながら造形化するという活動になる。制作カルテにおける実際の活動は、主題の文にある言葉やマインドマップで書かれたキーワードをインターネットで検索し、そこから得られた画像などをそのまま貼り付けたり、それをもとにスケッチを描いたりする。この学習によって、主題を視覚的な面から検討することに加え、その後のアイデアスケッチや立体的に造形する活動に役立つ情報を集めることができると考えた。

表1 制作カルテの構造

セクション	設問 No・設 問	学習活動	ねらい
発想のためのヒント	1	かなえたいねがいはいどんなことですか	願いや思いを文で表現
	2	ねがいをかなえるパワーを与えるのはどんな形でしょう	願いや思いに適合する対象となるものを文(単語)で書く
	3	ねがいのキーワード集	マインドマップでイメージを広げる
	4	形のキーワード集	内的イメージの図式化
造形化のためのヒント	5	ねがいのキーワードや形のキーワードに関するスケッチや写真	内的イメージの視覚化・喚起
アイデアスケッチと設計図	6	アイデアスケッチ	造形的イメージとしての検討
	7	作品の設計図	より具体的な構想図を描く
	8	こんな作品にしたい	文で書く
	9	作品のタイトル	文・単語で書く
	10	友だちからのアドバイス	文で書かれる
	11	先生からのアドバイス	文で書かれる

③ アイデアスケッチと設計図

アイデアスケッチは、制作カルテの「発想のためのヒント」と「造形化のヒント」によって検討された主題を基に、実際に作りたいお守りのスケッチを描いていく。設計図は、実際に作る形を決定し、実物大で描く。この設計図では、作りたいお守りの立体的な形をつかむために、影などを付けて立体感のあるスケッチを描かせる。

「こんな作品にしたい」「作品のタイトル」は、作品に仮の題名をつけることによって、ここまでの活動の中で明らかになってきた表現主題をより明確にしようとする設問である。加えてどんな作品にしたいのかについての自分

の思いをまとめて書かせることで、この後の造形表現への意欲付けを行いたいと考えた。

さらにこのセクションには「友達からのアドバイス」「先生からのアドバイス」がある。制作カルテを友達と見せ合いアドバイスや感想を伝え合うことで、他の人の考えを聞いたり、一般的な見方を知ったりすることができる。この活動には、生徒が自分の作品を客観的な視点で検討することに加え、互いの表現のよさを認め合うという学習のねらいがある。

5. 分析と考察

(1) 題材と主題指導の関係

「お守りづくり」から「ねがいをかなえるお守り」に題材名を変えたことで、ある学級の生徒たち(39名)の主題がどのように変化したのかを類型化し一覧に示した。(表2)これらの主題が夢や目標などの内面世界とどのような関係で主題化されたのかを分析し考察する。

① 類型1 部活動への願いを主題としたもの(7名)

部活動での夢や自己向上を目指すことが主題となっており、中学生の生活感情を特徴的に表している。「総体(総合体育大会)の全国大会に出場したい」という夢を主題とした生徒はサッカー部の生徒で、3年生が全国大会に出場したことを受けて、自分たちもそうなりたいという気持ちを込めて主題としている。部活動に打ち込んでいる生徒にとって強くなりたい、うまくなりたいたいという願いの中には、上級生や強い選手などへの憧れが強く存在するのであろう。

② 類型2 自分の生き方への願いを主題としたもの(19名)

自分の生き方を見つめる中から生まれた思いを主題としたもので、この類型が最も多かった。この類型には、自分の生き方を肯定的に捉

えた生徒と否定的に受け止めた生徒がいる。例えば「自分らしく自由にのびのびと生きる」は、自分の伸び伸びとした生き方を肯定し、これからも続けたいという思いである。一方「私が強い気持ちを持つためのお守り」のように、多くの生徒は今の自分を変えたい、別の可能性のある生き方をしたいという思いから主題を生み出していると推測できる。「迷ったときも真実の目で見ると」には、様々なことに迷いながらも、自己判断をして主体的な生き方を目指す生活感情が表れている。生徒たちは自分を見つめる中で、それぞれが理想的な生き方や理想的な未来の自分を思い描くことができたといえる。

③ 類型3 将来の夢についての願いを主題としたもの（3名）

未来の職業への夢を主題としたものである。「画力があがることを叶える」とした生徒は、将来漫画家になりたいという夢を持っており、自分の絵の力を伸ばしたいという目標を主題とした。プロサッカー選手になるという夢をストレートに主題にした生徒は、あまり美術には積極的に取り組まない生徒であるが、この題材ではいくつものアイデアスケッチを描きながら意欲的に取り組むことができた。「ねがいかなえる」という語の持つ未来に向かうイメージが、夢に対する強い思いを主題に変えさせたと考える。

④ 類型4 社会への願いを主題としたもの（4名）

社会的な問題に関心が向くようになるのはこの時期の子どもの特徴である。「世界が美しくなるという願い」という主題を生み出した生徒は、片側の翼に花のつばみを携えて羽ばたく鳥の姿をモチーフに作品を作り、花と鳥に平和への祈りを込めたと説明していた。この類型の生徒らは、戦争などの社会問題をテーマにし、理想的な社会を思い描くことから主題を生み出した。その理想の一つの典型が「平和」とい

表2 「お守りづくり」と「ねがいをかなえるお守り」の主題一覧

No	「お守りづくり」での主題	類型	「ねがいをかなえるお守り」での主題
1	友情・幸せを運ぶ	1	挑戦する心を持って試合で活躍する
2	健康	1	試合で上位になるためのお守り
3		1	バドミントンが強くなるという願い
4	部活が強くなる	1	総体の全国大会に出場したい
5	友情	1	県大会ベスト8入賞
6	強く	1	自分がテニスの試合で勝ちたいという願い
7		1	もっと足が速くなるという願い
8	友情・未来	2	夢に向かって羽ばたく
9	力・守り	2	鋭く根気強く何事にも負けるな
10	上を向け	2	つらいときでも涙がこぼれないように
11		2	どんな困難でも乗り越えられる
12	幸せ	2	自分らしく自由にのびのびと生きる
13		2	いろんな人を助け、守れるように
14	勇気・力	2	発表などの時に勇気を釣って手に入れる
15	恨み、ねたみ、憎悪	2	迷ったときも真実の目で見ると
16	健康	2	樹のように、何があっても強い意志で生きる
17	健康・安全	2	クジラのように大きく成長
18		2	自分の可能性を信じる
19		2	誠実に働くことができる
20		2	隠された才能を引き出したいという願い
21		2	自分が強く誠実になるという願い
22		2	今よりもっと違う自分に変わるように
23		2	悪事に誘われても断れる強い心を持つという願い
24		2	新しい始まりの扉が開くお守り
25		2	いん石のような勢いのある生き方
26		2	自分の正義を持ち続けることができるお守り
27	安全祈願	3	画力があがることをかなえるお守り
28	絆	3	プロサッカー選手になるための願い
29		3	料理が上手になるためのお守り
30	平和・安全・永遠	4	緑豊かな平和で静かな世界になる
31		4	世界が美しくなるという願い
32		4	この世の全員の平和と幸福
33	友情	4	人々が平和になるためのお守り
34	モーニング娘がもっと輝くように	5	モーニング娘がずっと輝くアイドルでいること
35	しあわせになる	5	家族がしあわせになるためのお守り
36		5	山を安全に登ることができる
37	進歩・勝利	5	家族が代々幸せに生きていける
38	元気、長生き	5	家族が健康でいられるように
39	日本と世界の平和	6	世の中やっぱ金が多い

うことになる。これは、題材名の「ねがいをかなえるお守り」の「かなえる」に注目した結果、叶えられていない平和への願いが主題として生み出されたと考察できる。

⑤ 類型5 一般的なお守りとして安心感を得ることを主題としたもの（5名）

一般的なお守りの効果を主題とした生徒が5名あり、ねらいは達成されなかった。家族の健康などの主題は他の学級にも見られ、生徒達にとって家族の幸せは大切な願いのひとつなのであろう。この類型の生徒は「ねがいをかなえるお守り」の「お守り」という語のイメージから抜けられなかったと推測できる。「ねがい」について、夢や未来への憧れという視点から自分と向き合う活動が不足していたと考える。

⑥ 類型6 その他（1名）

題材名に拒否反応を示した生徒が1名存在した。この生徒は、「お守りづくり」の際には「日本と世界の平和」という主題を生み出したのに、「ねがいをかなえるお守り」では「世の中やっぱり金」と主題を変更した。生徒の言い分は、このような作品を作っても願いなんて叶うわけがないというのであった。理想と現実の狭間で悩み、社会への批判的な心情が表現させたのだろう。

⑦ 題材名の変化による考察

全体として、「お守りづくり」では、最初の時間で主題が記入できなかった生徒が17名存在した。「ねがいをかなえるお守り」の題材提示によって、39名全員が主題を決めることができた。

「ねがい」として教師が意図したのは、将来の職業などの夢や自分の理想を思い描くことであった。しかし、実際には社会そのものに対する願いや自分の生き方そのものに対する向上心をテーマにするなど、様々なタイプの主題が生み出された。これは「ねがい」という言葉のイメージが、幅広く解釈されたためであると考えられる。このことは、多様な解釈を可能にする

題材名の設定が、生徒一人一人の多様な主題が引き出したと言える。

「お守りづくり」が「ねがいをかなえるお守り」に変わったことで、多くの生徒の主題が一般的なお守りから、一人一人の思いがこめられた、独創的なものへと変化した。いずれも生徒が身近な出来事や生活感情を基に、より個人的な問題と向き合うことで、主体的に主題を生み出していった結果ととらえることができる。

「ねがいをかなえるお守り」という題材はによって、夢を見つらいといわれる現代社会のなかにあっても、やはり夢を希求する子どもたちの未来への憧れが、表現主題として掘り起こされたと言える。

(2) 制作カルテの検討1－主題を生む機能

制作カルテの効果については、制作カルテの各コーナーに記述された内容を検討することで、主題が生み出された過程と、主題の深まりについて分析し学習効果を確かめる。

① 生徒Aの制作カルテから（表3、図3参照）

「平和で静かな世界」という主題から平和というキーワードを取り出し、イメージマップを書いた結果「緑」から「葉」へとイメージを連想させた。インターネットで様々な植物の葉を検索した結果、ヘビイチゴの3枚で構成されている葉の形が気に入りスケッチをした。スケッチをする中で葉の周りのギザギザの形がおもしろいと感じ、アイデアスケッチでもギザギザの形を生かした。スケッチの後に書いた仮の題名は「幸福のヘビイチゴ」とし、3枚の葉の構成から、「静か」「幸せ」「緑豊か」という3つの願いを込めることを発想し、主題を深めた。

② 生徒Bの制作カルテから（表3、図4参照）

生徒Bは、人前で緊張しやすい自分が勇気を持つという願いから主題を生み出した。勇気を手に入れるということを、好きなつりになぞらえて「釣り針」で釣り上げるという比喩的な表現にすることを思い立った。願いの中心キーワ

表3 制作カルテの記述内容

制作カルテの設問	生徒A	生徒B	生徒C
かなえたいねがいはいはどんなことですか	平和で静か（幸せ）な世界になる （緑豊か）	（発表などの）何かをするときに勇気を手に入れる	いろんな人を助ける、守れるように
ねがいをかなえるパワーを与える形 （〇印は中心となるキーワード）	〇平和、緑、葉、鳥、はと、はな、鈴、光	〇勇氣、手、力、赤色、星形、星座、光る物	〇護、つつみこむ、一緒にいる、助ける、大切にする
ねがいのキーワード集	鳥、葉っぱ	釣り針	つつみこむ感じ。つぼみみたいなやつ。
形のキーワード集	〇葉っぱ、葉脈、形の感じ？	〇釣り針、星座、魚、海、青、手、星、光る物	〇つぼみ、丸い、葉っぱ、つつみこむ
キーワードに関するスケッチや写真	ヘビイチゴの写真、葉のスケッチ	銀製で、トゲのある渦巻き型のアクセサリーの写真	蓮の花のつぼみの写真をスケッチ
こんな作品にしたい	平和＝緑豊かと思ったので葉にしました。ヘビイチゴは3枚の葉があるので3つの願いが叶えばいいと思います。	勇気を持って手に入れる。勇気を持つ。	
作品タイトル	幸福のヘビイチゴ	勇氣の護符	つぼみ
友達からのアドバイス	平和を表現できるように頑張れ	針が力強く表現されていて、勇気が釣れる気がします。	つぼみの形、なんか優しくてふんわり包んでくれる感じが伝わってくるのがいいと思います。
教師からのアドバイス	平和が表現できるように、柔らかな雰囲気になるように彫刻すると良いですね。	ギザギザは、写真の銀のアクセサリーのような鋭さを表現してみよう。	「守る」からつぼみを発想したことはすてきです。つぼみのあたたかなふくらみが表現できるように彫刻してください。

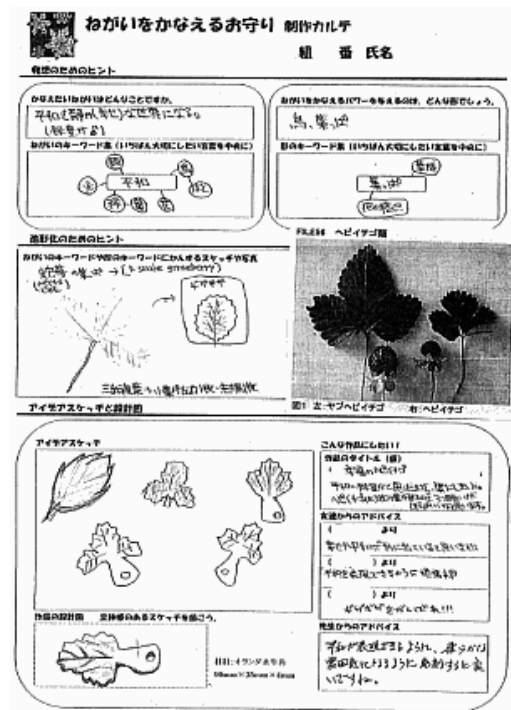


図3 生徒Aの制作カルテ



図4 生徒Bの制作カルテ

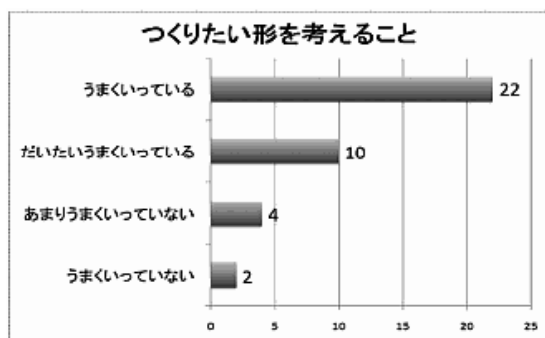


図5 作りたい形を考えることはうまくいっているか

ード「釣り針」からも関連した語に「光る物」という言葉が発想された。インターネットで見つけた銀製の輝きのあるアクセサリーの画像を手に入れ、渦巻き状に配置されたトゲの形に視覚的な刺激を受けたようである。その鋭い形を生かして描かれたスケッチには「勇気の護符」という力強いタイトルが付けられ、主題が生徒の中で明確になると共に、表現への意欲として強く意識されたことが推測できる。

③ 生徒 C の制作カルテから

生徒 C は「いろいろな人を助ける、守る」という主題を発想し、イメージマップで「護」という語から「つつみこむ」という言葉を連想し、つつみこむ感じを「つぼみ」という具体的なイメージに結びつけた。インターネットの画像では蓮の花のつぼみを見つけ、ていねいに細部までスケッチをしていた。アイデアスケッチでは小さな丸い形を包み込む単純化された柔らかな曲線のつぼみが描かれた。「助ける」「守る」という語からイメージツリーでつぼみを連想したことに加え、蓮の花をていねいに観察したことが形の構想に生かされたと言える。

④ アンケートからの考察

制作カルテを作成した後、対象クラスの生徒 39 人にアンケートを実施した。「作りたい形を考えることはうまくいっていますか？」の質問には「うまくいっている」「だいたいうまくいっている」と答えた生徒は 32 人 (84%) となっている (図 5)。またその理由 (図 6) も「主

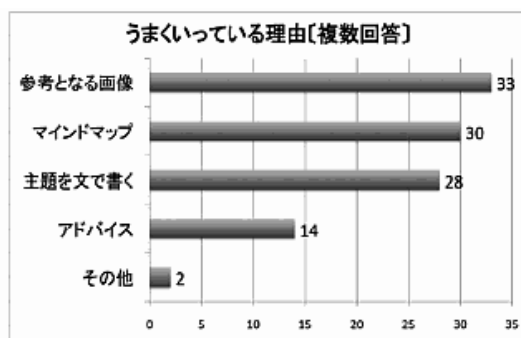


図6 うまくいっていると思う理由

題を文で書くことができたから」28 人 (74%)、「マインドマップでイメージが広がったから」30 人 (79%)、「インターネットなどで参考となる画像を見たりスケッチを描いたりしたから」33 人 (87%)、「友達や先生からのアドバイスがあったから」14 人 (37%) となっている。

これらの回答は複数回答としたが、4 つの項目全てを選んだ生徒が 8 名、3 つの項目を選んだ生徒が 12 名、2 つの項目が 14 名、1 項目だけ選んだ生徒は 10 名であった。このことから、制作カルテの活用によって、様々な角度から主題についての検討が行われたことで、主題を生み出す学習を充実させることができたと推測することができる。

(3) 制作カルテの検討 2 ー生徒の主題への理解

制作カルテから、教師が読み取った生徒の主題と、それに対応する指導内容について具体例をあげながら検討し、[共通事項]の視点からの指導・援助をするための制作カルテの有効性を考察していきたい。

① 生徒 D の制作カルテから読み取れた主題と指導の実際 (図 7 参照)

【読み取れた主題】

ソフトボール部に所属する生徒 D は、試合で活躍するという願いを主題にすることにした。マインドマップでは「飛躍」というキーワードから「成長」や「挑戦」「つかむ」などの前向きな言葉が次々に連想されていた。手の骨折な

どもあって、他の選手からは技術面で遅れているという事実を合わせて考えると、「技術や精神面を磨くために挑戦することで何かをつかみ、そのことをきっかけに自分自身を大きく成長させたい」という強い覚悟と向上心を主題の中に読み取ることができた。

【指導内容】

具体的なイメージは蝶が飛んでいる姿を造形化したいと考え、インターネットで蝶の写真を見つけスケッチした。しかし、図鑑の蝶は両方の羽を広げて固定されている。「飛躍」というイメージを表現させるために、羽ばたいている躍動感が表現できるよう、動きのある曲線で構成することを指導した。

【主題の深まりと実際の表現】

アイデアスケッチを重ねるごとに、徐々に蝶の動きが表現されてきた。最終的な設計図では、左右の羽根の大きさを変えることで奥行きを持たせ、躍動感ある曲線で構成された力強い蝶のイメージが生み出された。また、作品のタイトルの「飛躍」と、「躍動感あふれる作品にしたい!」という生徒Dのコメントからは、自分の主題が明確になった喜びを読み取ることができる。

② 生徒Eの制作カルテから読み取れた主題と指導の実際

【読み取れた主題】

「かなえたいねがいとはどんなことですか」に「木のように強く生きられる」「何があっても強い意志で生きていく」という二つの文が書かれた。願いをかなえるパワーを与える形には「火のようにもえる木」と書かれていた。これらのことから主題には「大きな樹木のように強い意志を持って、情熱的に生きたい」という思いが込められていると読み取った。

【指導内容】

「火のようにもえる木」をモチーフにしているので、構想を練る際には「樹木」と「炎」を結びつけるイメージが実現するようにアドバ

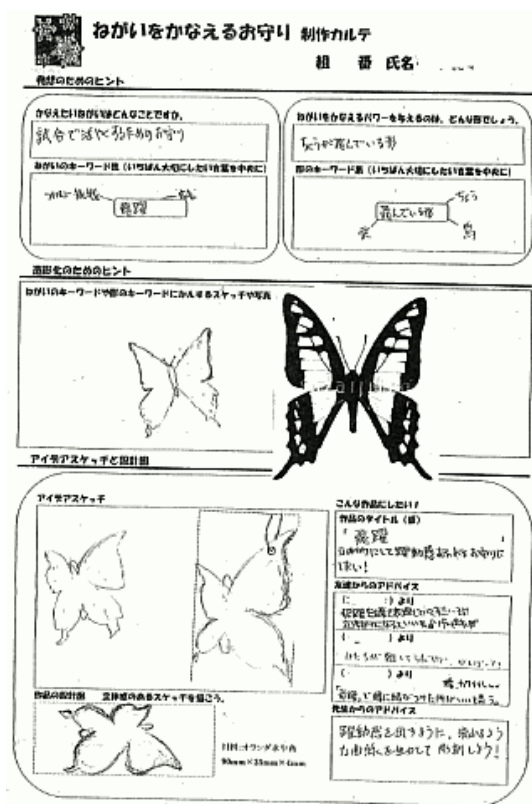


図7 生徒Dの制作カルテ



図8 生徒Dの完成作品

イスをすることにした。燃える樹木ではなく、樹木の中に炎があつたらどうだろうかとヒントを与えた。また、炎や樹木を単純化した上で力強さが表現できるよう構想を練ることを指導した。

【主題の深まりと実際の表現】

アイデアスケッチで現実の樹木の形に近いシルエットを描き、中の炎も整理されていなかったが、最終的な設計図では太い幹を持つ大木のイメージと、単純化された炎のイメージが合体し、ユニークな形が構想された。作品の仮タイトルが「強く生きる木」とされ、主題は、立派に生きる木と情熱で生きる木の二つの樹木のイメージを重ねることによって達成できたのである。「立派＝大木のイメージ」、「情熱＝炎のイメージ」とそれぞれ象徴的なイメージに置き換えて構成されたことによって、この主題は魅力的な造形イメージを持つことになった。

③ 多角的な理解と的確な指導を可能にする制作カルテ

制作カルテを活用することによって、生徒の主題が多角的に把握できることとなった。主題の文は、自分の表したいことを言葉でまとめるという知的な思考の結果であり、直接的に生徒の主題を理解できる。マインドマップで中心となるキーワードから連想された言葉には、生徒の無意識の心理が反映されていると考えられる。マインドマップは、主題文があまり明確でない場合にも書かれた単語から生徒の主題を推測することが可能である。造形化のヒントとしての資料の画像やスケッチは、実際にアイデアスケッチを通して、視覚的なイメージから主題を明確にするのに役立った。また、作品のタイトルからは、それまでの学習過程の中で主題がどのように深まったのかについて、最初の主題文などと比べることでより明確に把握することができた。

これらの多方面から生徒の主題を理解することは、その後の指導の中でも役に立った。例えば、主題文やマインドマップで記述された言葉をもとに、感情イメージに合うような形を考えさせる指導が実現できた。また、造形化のためのヒントとして用意された具体的な画像のイメージを基に、そこからどんな感じを受け取

ったのか、あるいはどこに魅力を感じているのかなどの発問を通して生徒の主題を明確にする指導に効果的であった。

6. 結論

本稿では、中学校美術科の学習において、生徒が主題を生み出すための効果的な学習指導の在り方について検討した。

まず表現主題についての理論的考察では、主題の機能とその成立過程を明らかにした。主題は、作者が美術を通して表したいことである。主題は表現の内容を決定付け、色や形などの造形要素、材料や表現形式などさまざまなものを統合する機能を持っている。主題ははじめから明確なイメージを形作っているわけではなく、作者の内面の曖昧な像として思い浮かべられるものである。そして、造形表現が形になって現れる中で、さらに明確にされていく性質を持つ。

主題は表現の方向性を決定し、表現活動の推進力として働く。また、主題は制作の進行に伴って明瞭になり、それは内的イメージから造形的なイメージへと変容するものである。

続く実践研究で明らかになったことは、題材名とその在り方により主題が生み出されるという機能である。題材構成を慎重に検討し、題材名によって生徒のイメージを刺激することで生き生きとした主題を引き出すことができることを実践的に示した。

本研究では表現主題の理論的考察に基づいて「制作カルテ」という構造化されたワークシートを開発し、これを活用して主題を生み出す方法論を提案した。「制作カルテは」、主題を言語化する、マインドマップでイメージを広げる、映像資料でイメージを明確にする、アドバイスによって共有化・再検討するなどの様々な機能を持った構造化されたワークシートである。このワークシートを活用した学習活動によって、

生徒は多角的に自己の内的イメージについて検討し、生き生きとした主題を表現することが実践を通して確かめられた。

また、教師がこのワークシートを参照することによって、より正確に生徒の表現主題を理解し、的確な指導が可能になることを実証した。

以上のことから、イメージを刺激する題材名と、それに合わせたワークシート「制作カルテ」の活用は、学習者の表現主題を引き出す指導方法として教育的可能性を示すことができた。

註

- 1) 有田洋子「表現主題の言語化をさせる美術指導」『美術教育学』第31号, 2010年, pp.29-42.
- 2) 新井哲夫「描画の発達と『主題』意識」『美術教育学』第10号, 1989年, p.175.
- 3) 立原慶一「絵画表現における『主題』の研究 VIII」『美術教育学』第18号, 1997年, p.161.
- 4) 金子一夫『美術教育の方法論と歴史〔改訂増補〕』中央公論美術出版, 2003年, p.53.
- 5) 同, p.53.
- 6) 金子一夫「主題を感情と像の言葉で分析・構成させる美術教育方法論」『茨城大学教育学部紀要（教育科学）59号』, 2010年, pp.47-64.
- 7) 同, pp.53-64.
- 8) 有田, 前掲「表現主題の言語化をさせる美術指導」『美術教育学』第31号, 2010年, pp.29-42.
- 9) 立原慶一「題材『夢の色模様』における題材論的方法の研究」『美術教育学』第22号, 2001年, pp.115-127.
- 10) 金子一夫「主題を感情と像の言葉で分析・構成させる美術教育方法論」『茨城大学教育学部紀要（教育科学）59号』, 2010年, p.59.



図9 生徒A作品 「幸福のヘビイチゴ」



図9 生徒B作品 「勇気の護符」(勇気を釣って手に入れる)



図10 生徒作品と主題

左上「Joy-楽しく生きる」

右上「鉈」(労働への願い)

左下「しずく」(水滴のようにしなやかで潤いのある生き方)

右下「ウナギのお守り」(ウナギのように粘り強く生きる)